

受賞を契機に新たに取り組んでいること

当委員会の今後の活動方針については、平成22年11月に協定が期間満了になることから、住民に対して協定の更新延長について必要性を理解してもらうよう、引き続き啓発活動を積極的に行うこととしている。

また、当該地区は、2つの公園及び住宅周辺に多くの公共緑地を有している。これらの公園や緑地の環境を維持するため、引き続き住民の協力を得て、除草等の環境美化活動にも力を入れていきたいと考えている。

さらに、今般の賞金及び補助金を活用して、①外部専門家による指導・支援を得て協定をスムーズに更新するための活動、②公園や公共緑地についても整備されてから十数年経過していることから、枯れた樹木も少なくなく、それらの補植や季節ごとの花の植栽による環境維持、③13箇所あるごみステーションには、カラスからの被害を防止するためごみ袋の上にネットをかけることにしているが、それでも被害は少なくない。そこで、周囲の環境に調和するデザインでカラスからの被害を防止する工夫について検討及び実施等を考えている。

① 協定の更新

当面の最重要課題は、①の協定の更新である。当該地区は、分譲開始時期に開発者による一人協定であったこともあり、当該協定についてよく理解しないまま購入した人も少なくないようである。外壁塗装やウッドデッキなどの工事についても当委員会に申請する必要があり、自分の家を勝手に触れないことに戸惑いを感じている人も少なくないようである。また、不動産価格の下落に伴い、これらの規制のためにより下落したと誤解している人もいるようである。今後、地区計画と建築協定について、それぞれの内容や役割、必要性について、理解を得ていかなければならないと考えている。そのため、今般の補助金を利用して、協定をスムーズに更新するため、「住まいと街並み研究所」（代表者 増田史男氏）に協力依頼し、ご指導賜ることとしている。17年度については、とりあえず100千円の予算で協定更新に向けて「住み続けたい街」とするための方策等についてご意見を賜ることとしている。18年以降については、17年度の成果を見て住民の意見を聞きながら協定の更新に向けた継続した活動をしていきたいと考えている。

② 植栽による環境維持

「住み続けたい街」としていくための重要な課題のひとつは、②の分譲時の緑にあふれた環境を維持していくことであると考えている。十数年経過して、残念ながら「さつき」や「つつじ」の低木や桜などの高木も枯れたりして緑が減少していることは否めない。これらの緑を外部委託して分譲当時の姿に戻すにはかなりの費用が必要である。公共緑地の植栽については、大阪府の樹木の提供制度を利用して、当委員会の負担を土壤改良や肥料購入等をできるだけ抑えて、住民の協力を得ながら行いたいと考えている。また、賞金を利用して、メモリアル的な植樹や環境整備もよいのではないかと考えられる。

③ ごみステーション

環境の維持については、③のごみステーションの問題もある。13箇所あるごみステーションに化粧ブロックを利用して周囲を囲むことによって、ネットをかけやすくしてカラスからの被害を防ごうと考えている。荒い概算では、7～800千円要することから、今後住民の意見を聞きながら検討していきたいと考えている。

いずれにしても、17年度は残された時間も短く、18年度以降十分検討しながら大切に補助金を使用していきたいと考えている。17年度及び18年度以降の執行計画は、次の通り考えている。

調査検討経費の使途（17、18、19年度分）

17年度

- ① 協定更新に向けて「住み続けたい街」とするための方策等についてアドバイス等

18年度・19年度

- ② 公共緑地の記念植樹も含めた環境維持
- ③ ごみステーションの改善整備

近い将来取り組むべき課題

コモンシティ星田は、分譲から15年余を経過しているが、当面の重要課題は、街の環境を維持していくためにも、当該協定の継続が必要であることから、当委員会の使命は平成22年に更新を迎える協定の維持であると考えている。